



近畿島根県人会  
だより  
**第95号**

令和4年  
10月23日発行

津和野町・堀庭園（紅葉）



隠岐の島町と株式会社モンベルとの包括連携協定式

令和二年一月二十九日、隠岐の島町は株式会社モンベルと、相互の連携を強化し、アウトドア活動等の促進を通じた地域の活性化と住民生活の質の向上に資するため、包括協定を締結しました。

この協定により、双方が連携し隠岐の島の自然の中で行うキャンピングやシーカヤック、トレッキングなどのアウトドアアクティビティを活用した地域振興・観光振興のため、連携・協力していくこととなりました。

**株式会社モンベルと包括連携協定**  
**ジャパンエコトラック公式マップに**  
**「隠岐・島後」が新規公開！**  
**（隠岐の島町）**

「お問い合せ」  
隠岐の島町役場 商工観光課  
TEL...085121218575

今後、豊かな自然を満喫する手段として、登山・トレッキング、サイクリング、カヌーなどのアウトドアアクティビティの人数が定着してきており、性別や世代を問わず楽しむ人々が増加してきています。

こうした状況の中で、隠岐の島町では、本町の海洋に囲まれた離島ならではの立地を活かしたアウトドアアクティビティを軸とした滞在型観光「アウトドアツーリズム」を構築するために、株式会社モンベルの協力のもと、包括協定後の令和二年度から三年度までの二年をかけた、「隠岐の島町アウトドアツーリズム基本構想」を策定しました。

また、併せて令和三年度には隠岐の島町を「ジャパンエコトラック」に登録しました。ジャパンエコトラック（JAPAN ECO TRACK）とは、トレッキング、カヤック、サイクリングといった

「隠岐・島後」が新規公開！



シーカヤック体験

人力による移動手段で、日本各地の豊かで多様な自然を体感し、地域の歴史や文化、人々との交流を楽しみながら旅をする新しい旅のスタイルです。

登録にあたり、隠岐の島町内でアクティビティを楽しめるルートを設定し、パンフレットの制作や公式WEBサイト、スマートフォンアプリに登録し発信しておりますので、ぜひご覧ください。

今後、豊かな自然を満喫する手段として、登山・トレッキング、サイクリング、カヌーなどのアウトドアアクティビティの人数が定着してきており、性別や世代を問わず楽しむ人々が増加してきています。

こうした状況の中で、隠岐の島町では、本町の海洋に囲まれた離島ならではの立地を活かしたアウトドアアクティビティを軸とした滞在型観光「アウトドアツーリズム」を構築するために、株式会社モンベルの協力のもと、包括協定後の令和二年度から三年度までの二年をかけた、「隠岐の島町アウトドアツーリズム基本構想」を策定しました。



ジャパンエコトラックパンフレット（表紙）

## 島根県大阪事務所からのお知らせ

### イベント開催情報

#### 【いくの未来子どもお店バトル】

中学生と高校生がチームを組んで、各県の特産物を仕入から販売、決算まで行い、利益等を競う商店街のイベントがあります。どじょう掬いまんじゅうなどの島根県産品を生徒たちが販売します。

(日時) 十一月十二日(土) 九時半～十二時  
(場所) 生野本通中央商店街  
(大阪市生野区林寺)

### イベント開催報告

各種イベントに多数ご来場いただき有り難うございました。



花園ラグビー場 (FC神楽しまね vs FC大阪) 観光物産島根ブース出店 9月11日(日)



祇園祭 観光物産島根ブース出店 7月15日(金)・16日(土)



あべのQ'sモール 中四国9県観光物産展 9月23日(金・祝)～25日(日)



阪急オアシス産直市 キセラ川西店・S S T 吹田店 (毎週土日交互開催)

#### 【「お知らせメール」登録者募集中!!】

「島根県大阪事務所からのお知らせ」(メール配信)は、関西地方における島根関係のイベント情報等をお届けするものです。随時ご登録いただいたメールアドレスにお届けします。



お知らせ  
メールアドレス  
QRコード

※近畿島根県人会会員様  
の中で、未登録の方は、  
ぜひ「お知らせメール」  
にご登録ください。

### 近畿島根県人会事務局

からのお知らせ

#### 【京都島根県人会

八坂神社に三年ぶりに石見神楽奉納】

祇園祭宵宮に合わせ、八坂神社(京都市東山区)で七月十六日夜、京都島根県人会が三年ぶりに石見神楽を奉納しました。能舞台で久佐組神楽社中(浜田市金城町)が「天神」「塵輪」「大蛇」三演目を披露しました。



#### 【近畿島根県人会 会員募集】

お知り合いの方で当県人会にご興味がある方がおられましたら、事務局までご連絡ください。活動内容や入会方法等をご説明いたします。※市町村人会の方で、**県人会未加入の方へぜひお声がけ願います。**

#### 【近畿島根県人会ホームページのご案内】

近畿島根県人会ホームページでは、近畿島根県人会の紹介、活動報告、機関紙、市

町村人会・県人会、お知らせ、イベント情報、縁結び美味しまね認証店等を掲載しております。

ぜひ、ご覧ください。



近畿島根県人会  
ホームページ  
QRコード

#### 【異動の連絡】

住所・連絡先・勤務先等に変更がございましたら、近畿島根県人会「会報」巻末の『異動通知連絡票』をご提出ください。また、記載事項に誤り等がございましたら事務局までご連絡ください。  
ご理解とご協力をお願いいたします。

### イベント開催情報

#### 【オペラ石見銀山関西公演開催】

オペラと石見神楽を融合させた「オペラ石見銀山」関西公演が上演されます。

(日時) 十一月二日(水)

昼公演: 十三時半～ 夜公演: 十八時半～  
(場所) 京都劇場(京都市下京区烏丸通塩小路下ル 京都駅ビル内)

(お問い合わせ) オペラ石見銀山実行委員会  
TEL: 0854-8210170

(株式会社シグナル内)

#### 【島根・大田の石見神楽公演開催】

京都駅前にて石見神楽「大蛇の舞」が観覧無料で上演されます。

(日時) 十一月二日(水)

一回目: 十二時～ 二回目: 十六時半～  
(場所) JR京都駅「駅前広場」  
(ホテルグランヴィア京都前)

(お問い合わせ) 石見銀山神楽連盟  
TEL: 090-7995-3701

(河村)

# トロッコ列車「奥出雲おろち号」

## 二〇二三年度引退へ！

JR木次線は、島根県松江市の宍道駅から広島県庄原市の備後落合駅を結ぶ八・九kmのローカル線です。ここを走る観光トロッコ列車『奥出雲おろち号』は、一九九八年に運行を開始し現在も根強い人気の列車ですが、昨年JR西日本から、車両の老朽化を理由に二〇二三年度での運行終了が発表されると、チケット争奪戦は過熱し発売と同時に満席になる状況が続いています。

『奥出雲おろち号』は青と白を基調としたデザイン、圧倒的な存在感をもつディーゼル機関車、象徴的なオロチのデザインをモチーフにしたヘッドマーク。車内は、窓ガラスがなく開放的で椅子と机は全て木製でレトロな味わい。座っただけで自然と気分が盛り上がります。間もなく列車が動き出すと、窓ガラスがないだけでこんなに違うのかと思うほど風が車内を吹き抜けていきま



トロッコ列車「奥出雲おろち号」

パノラマのように広がるのどかな田園風景にほっとするような感覚になります。トンネルに入ると、車内は一気に暗くなると同時に歓声が沸き起こります。天井にオロチのイルミネーションがあり、トンネルに入ると色を変えながらキラキラ光り楽しませてくれます。レトロな照明もほのかな灯で車内を優しく彩ります。

また、木次線沿線の駅や人々の関わりも魅力のひとつともいえるでしょう。『奥出雲おろち号』に乗ると、手を振る人々の多さに驚きます。通過する列車に農作業の手を止めて手を振る姿や、休日には駅を訪れる親子連れが列車の到着を待ち、集まった人々が一斉に手を振ってくれる光景をみることもできます。「手を振る」ただそれだけのことが、「いつもの違う場所にきた」そんな特別感を味あわせてくれます。そして、一番魅了する絶景が出雲



車内天井「オロチイルミネーション」



おろち号見送り

坂根駅から三井野原駅です。ここから線路は急勾配を進んでいくため、全国的にも珍しい「三段式スイッチバック」となっています。途中の出雲坂根駅から一旦バックで折り返すように坂を登り、更にもう一度折り返してジグザグに進みます。

三井野原駅との標高差は約一六〇m！日本最大級の二重ループ「奥出雲おろちループ」や真っ赤な「三井野大橋」を眺めながら進んで行きます。まさにそれは絶景ともいえるでしょう。

五感で楽しむことができます『奥出雲おろち号』。乗る人に感動を与えてきました。運行終了は大変寂しく感じますが、新たな観光列車『あめつち』とともに木次線の旅がこれからも続いていけるよう皆様のご乗車をお待ちしています。



三井野大橋

「お問い合わせ」  
一般社団法人 雲南市観光協会  
TEL..0854-4717878  
FAX..0854-4717879





益田市・萬福寺（庭園）

近畿島根県人会  
だより  
号 外

令和4年  
10月23日発行

## 近畿・島根歴史探訪コラム

### 一ノ谷合戦と益田兼高の英断

この度、島根の歴史について執筆されておられる、島根県大阪事務所田中博一氏に、島根と近畿の歴史に  
関連するコラムを連載いただきます。

源平合戦での有名な一場面といえ、一ノ谷の合戦における源義経の鴨越（ひよどりごえ）の逆落としがあげられます。この一ノ谷の合戦において石見国の武将が参陣していたこと、しかも源氏側に参陣していたことをご存じでしょうか？ その武将は御神本兼経（みかもとかねつね）という武将です。後の壇ノ浦の戦いでは敵船二五艘を捕獲するなどの功績を挙げ、恩賞として益田荘を与えられたことから益田兼高と名前を変えています。そう、中世を通じて石見国に大きな影響力を持っていた益田氏の祖とも言える人物です。ここで少しばかり疑問が湧きます。一ノ谷の合戦時の源氏軍といえ、この軍はほんの二ヶ月前に源（木曾）義仲から京の都を取り戻したところ、益田兼高をはじめ西日本の武将達にとつては東国からやってきたばかりの坂東武者と、都落ちした



#### 萬福寺

時宗益田道場として平安時代に建立され、当初は安福寺号し益田川河口付近にありました。しかし大津波で流出してしまい、後の1319年、游行4代吞海上人が再興しました。1374年には益田七尾城11代城主が現在の地に移築して萬福寺と改称、益田家の菩提寺と定められました。

その後、1479年に15代城主益田兼堯が歌聖・雪舟を招き、石庭を造らせました。1866年長州征伐益田口戦争の際には、幕府軍の陣営となり総門は焼失しましたが、本堂や庫裏はそのまま残っています。鎌倉時代の建築様式の本堂（重要文化財）、雪舟が築いた庭園（史跡及び名勝）、仏教の教えを表す「二河白道図」（重要文化財）、南蛮貿易によりもたらされた「華南三彩壺」など、中世益田文化を代表する文化財が集まる寺院です。国重要文化財、国指定名跡及び名勝。（益田市観光ガイドより）

とはいえ京の都で栄華を誇り天皇と三種の神器を手中にし瀬戸内での制海権を回復していた平家一門と、どちらが信用できるか？ という話です。益田兼高は何故、源氏軍に味方したのでしょうか。益田兼高はそれほど人を見る目、未来を見とおす力

があつたのでしょうか？ 益田氏といえ、中世を通じて西石見で大きな勢力となり、氏族の三隅氏、周布氏などと時には争い、時には連携して覇を競っていました。さらに雪舟を招き萬福寺や医光寺へ庭園を造作するなど、現代まで残る中世文化を築き上げました。それ



### 医光寺（庭園）

臨済宗東福寺派のお寺ですが、もとは天台宗崇観寺の塔頭でした。崇観寺は1363年に創建され、足利将軍の台翰（手紙）をもって住職を任命したほどの格式のある大伽藍でした。益田兼見は本尊の釈迦如来坐像作成の大檀那（スポンサー）となっています。

文明年間（1469～1486）第七代住職雪舟はこの崇観寺の塔頭のひとつに庭園を残しました。その後、崇観寺は衰退していき、17代益田宗兼によって医光寺が開基しました。

医光寺の雪舟庭園は国史蹟および名勝に指定されており、池泉鑑賞半回遊式の庭園で、鶴池に亀島を配置した吉祥の庭となっています。毎年3月半ばには枝垂れ桜が華やぎを添え、5月には一面のツツジ、夏は緑が涼しく、秋には大きな楓が赤く染まっています。国指定史跡及び名勝、国登録文化財、県指定有形文化財。  
（益田市観光ガイドより）



### 三宅御土居跡

益田氏の居館跡と考えられています。この館跡の最大の特徴は、東西に残る高さ5mの土塁です。南側の土塁は現存していませんが、発掘調査により1m弱の土塁がみつかりました。2ha余りの広さがあり、同規模の領主の館と比較して2倍の大きさがあります。この居館は益田氏が、関ヶ原合戦後に須佐に移封されるまで使用されていました。平成16年に七尾城跡とともに益田氏城館跡として史跡となっています。  
（益田観光ガイドより）

だけの勢力を得るために、益田氏は日本海を通じた交易を積極的に行っており、海洋的領主としての性格が強かったのではないかと、いわれてはいます。高津川の河口近くに位置する中須原遺跡からは中国・朝鮮製の陶磁器や木製の荷札、鍛冶場跡なども見つかった。おり、交易拠点として栄えていたことが分かっています。また毛利との和睦の際には蝦夷地から仕入れた昆布や数の子や、虎の皮などを贈っており、交流の幅広さがうかがえます。となると先の問題にどうして、源平合戦の時点で益田氏が重

要になります。そもそも「壇ノ浦の戦いで敵船二五艘を捕獲」できるほどの水軍を有していたのですから、相当の勢力を持つていたはず。そして平家、平清盛は当時の国際貿易港を博多から福原（現神戸市）へ移そうと考えていました。これは西日本で水軍を擁する勢力にとつて死活問題であり、平家との共存共栄は考えられませんでした。（当時の水軍は戦闘だけでなく交易や漁労など、船を使つてできることは何でもやっています）  
したがって益田兼高が源氏軍に味方した理由は「敵の敵は味方」という理屈ではないでしょうか。それでも、一ノ谷の合戦時点で源氏軍に参加した西日本の武將は益田兼高のみであり、兼高の選択は英断といえるものだと思います。その英断によって、現在の中世益田の歴史文化が築かれて今に至っているのではないのでしょうか。



中須原東遺跡  
文化庁「文化遺産オンライン」  
QRコード

### 【コラム筆者：田中博一氏のご紹介】

島根県邑南町出身。農業普及員（花き専門）、島根県農業技術センター等を経て、令和3年4月から大阪事務所勤務。著書に『石見戦国史伝』『浜田城史伝』（ハーベスト出版）があり、島根の歴史を分かりやすく紹介している。